

平成 25 年度第 4 回坂出市子ども・子育て会議 議事録

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 平成 26 年 3 月 19 日（水）午後 1 時 30 分 |
| 開催場所 | 坂出市水道局 3 階 大会議室 |
| 会議次第 | <p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>（1）教育・保育提供区域の設定について</p> <p>（2）事業計画における「量の見込み」の算出について</p> <p>（3）子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告について</p> |
| 出席委員 | 小松会長，藤井副会長，入江委員，大林市委員，大林朋委員，金井委員，川滝委員，齋藤委員，篠原委員，砂川委員，中西委員，南条委員，橋本委員，花岡委員，三野委員，米澤委員 |
| 欠席委員 | 杉田委員，中橋委員 |
| 配布資料 | <p>資料 1 教育・保育提供区域の設定について</p> <p>資料 2 市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出について</p> <p>資料 3 坂出市子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について</p> <p>資料 4 坂出市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書</p> <p>参考資料 住民基本台帳人口の推移</p> |

<会 議 の 概 要>

○開 会

会 長 それでは定刻になりましたので第 4 回坂出市子ども・子育て会議を開催したいと思います。委員の皆様におかれましては公私ともにお忙しい中，ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。それでは初めに本日の出席の状況につきまして，事務局より報告をお願いいたします。

事務局 委員の出欠の状況につきましてご報告をさせていただきます。本日 2 名の委員の欠席のご連絡をいただいております。1 名遅参するというご連絡をいただいております。委員 18 名中 16 名の出席ということになっておりますので，定足数であります半数以上を満たしておりますことをご報告させていただきます。

会 長 ありがとうございます。本日の資料につきましては，あらかじめ事務局

より送付いたしております。お持ちでない方がいらっしゃいましたら、お申し付けいただきたいと思いますと思いますが、皆様お持ちでしょうか。

○（１）教育・保育提供区域の設定について

会 長 それでは早速ですが議事に入らせていただきます。本日の議題は、お手元の会議次第にごございますように、教育・保育提供区域の設定について、事業計画における量の見込みの算定について、ニーズ調査結果報告についての３点となっております。

 それでは議題１ 教育・保育提供区域の設定について事務局より説明をお願いいたします。

事務局 （資料１ 教育・保育提供区域の設定についての説明）

会 長 ありがとうございます。教育・保育提供区域の設定について事務局より説明がありましたが、ただいまの説明につきまして、委員の皆様からのご意見を伺ってまいりたいと思います。市の案ですと資料にありましたが、それを踏まえまして、市全域を１区域とするというようなことでしたが、いかがでしょうか。ご意見ございますでしょうか。

委 員 すみません。勉強不足でよくわからないのですが、今現在はどういうふうになっているんですか。

会 長 事務局、お願いいたします。

事務局 現在は事業計画がございませんので、特段、区域設定というものはございません。ただ公立幼稚園であれば小学校区の幼稚園に通う。保育所であれば市内全域一緒ですし、私立幼稚園の場合は市外の方も含めて通うことができるというような状況になっております。

委 員 １区域になっても、現状とあまり変わらない。実際はあまり変わりはないということになりますか。

事務局 区域設定は、利用をその区域に限るというものではございません。どの区域に、たとえば幼稚園のニーズが不足しているか。主には不足のほうを考えていただきたいと思います。区域を設定した場合に、その全体の中で施設を使いたいという方がどれだけいて、それに対して施設の利用定員がどれだけあるかということと比較することになります。たとえば需要のほうが大きい場合であれば、その不足分をその区域の中で新たに施設整備を行っていくという考え方になります。

 たとえば利用はその区域に縛られませんので、その居住区で需要量は計りますが、必ずしも、たとえば保育所であれば、帰る途中にあるところのほうの方が便利がいいとか、職場の近くのほうが便利がいいとか、幼稚園でもたとえば私立を利用したいとかいうような、それぞれ利用者の方はニーズがござい

ます。ですから地域ごとに設定したからといって、必ずしもその地域内で需要と供給のバランスが、実際に取れるかといったら、そういうものでもございません。

利用者は、保育所であれば市内どこでも選べますし、幼稚園であれば市外も含めた利用もできるということで、あくまで今後施設整備をどの地域に行っていくか。特にこの制度ができましたのは、都会の待機児童が多いところで、たとえば全市的には、供給はあるんですけども、現実として市域が広い中で、南から北まで、そこが空いているから使ってくださいというのは現実的ではないのではないかとということで、利用者の利便性という観点で、ある程度の区域設定をして、通える区域に必要な量を適切に整備していきなさいということの区域設定という考えでございます。

会 長 その他、いかがでしょうか。ご質問でもかまいませんので、何かありましたら。はい、お願いいたします。

委 員 すみません。そうしたら利便性で言うと、どうしても坂出だったら市内に今も集中していますけれども、保育所とか幼稚園とかが、駅の近くにですね。これから先、ちょっと離れているところの小さい保育所とか幼稚園というのは、必要がなくなったら、なくなってしまいうんですか。

事務局 この計画は、今の施設をなくしていくというものではございません。施設整備の基本となるということで、不足した地域に整備をしていくための区域設定でございますので、この事業計画によって施設がなくなっていくとか、そういうものではございません。

委 員 わかりました。でも、利用者数が多いところは整備がどんどん進んでいく可能性がある。でも利用者数が少ないところは後回しというか、もしかしたら最悪の場合は現状のままでいかなければいけないという場合もあるんでしょうか。

事務局 不足している場合については、新たに施設を作っていくって需要に対応していくということなんですけど、需要と供給のバランスが今の段階で取れているのであれば、新たに施設整備は行わないで、既存施設で今の需要を補うといえますか、需要と供給のバランスを取っていくということになってまいります。

会 長 よろしいでしょうか。その他にいかがでしょうか。ご意見等はございますでしょうか。事務局案ですと、市全域1区域とするということですが。もしないようでしたら、これでご承認いただけたというふうにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委 員 失礼します。メリットとデメリットのところ、小さい区域にした時はき

め細かにサービスが提供できて、区域を大きくしたら、きめ細かいサービスの提供が難しくなるというのが書かれているのが、具体的にどういうことを示しているのか。それから利用する立場としては、きめ細かいサービスの方がよいですが、事務局の方のお話でいうと、それほど大きな変化があるようには思われません。1区域にした場合に、きめ細かいサービスの提供が難しくなるというのは、どういうことなのでしょうか。

事務局

現状から言いますと、今が市内1区域というようなものです。幼稚園であれば、公立幼稚園は地元ということは先程言いましたが、私立幼稚園や保育所については、市内全域どこでも利用できる。

先程のメリットのきめ細かいサービスというのは、ちょっとわかりにくい言い方かも知れませんが、たとえば歩いて近くの保育施設まで行けるとか、将来的なことを考えれば、同じ校区内で幼稚園、保育所を利用して、そのまま小学校まで行ける。利用者から言えば近くにあって使いやすいということで、きめ細かいサービスというのはそういうことです。デメリットと申しますと、先程も言いましたように、既存の施設は位置的には偏っております。特に保育所関係ですが、各校区に現状の人口、児童数に応じたような形で施設が設置されているような状況にはございません。これは先程も言いましたように、保育の場合は就労ということがありますので、就労に便利なようにということで、市中心部に整備がされたのかなと思います。

これをたとえば12区域にした場合、保育所がない地区ができてまいりますし、地区内で供給が過剰になるという逆のところも増えてまいります。仮に細かく切って、この地区が不足しているので、保育サービスをその地区に新たに整備するとした場合につきましても、果たして事業者も含めてなんです、される方がいらっしゃるのか。そういったものも含めて、先程言いましたように、その区域内で必ずしも利用しないといけないということではないので、新たに施設の整備をしたからといって、利用者がいるという保障がないということで、そこに事業者が進出する、参入するということも不透明なところもございます。

それともう一つ大きな点は、後ほど事業計画の量の見込みのところに出てくるんですが、保育所の現在の定員数に対しまして、ニーズ調査から推計している数字というのは、定員を下回っております。こういう中で細かく区域を割った場合に、不足となったところは、今後条例等で認可基準は定めていくんですが、地域型保育事業とか、新設の保育所でもそうなんです、供給が足りてないところにつきましても、認可基準を満たしていれば市とか県は認可しなければいけないということになります。今までは社会福祉法人だけ

でしたが、新たに株式会社などもできることになっていまして、今後は基準を満たしていれば、許可しなければいけないということになります。現実的に全体として供給が不足していない中で、偏在して供給不足の地域ができて、新たに施設整備をしていくことは、今後の坂出市の将来を考えていく中で、プラスになるのか、マイナスになるのかということを考えまして、現在の坂出市1区域でも、そう大きな問題は生じていないのかなということで、今回、事務局案としては1区域ということで提案させていただいております。

会 長 よろしいでしょうか。いかがでしょうか。

委 員 私の地域で聞いた話なんですけれども、校区としたら小さい地域なんですけれど、保育園にたくさん他の地域からも来ていただいて、すぐ近くに家があるんですけどね、すぐ近くの保育園には入れなくて、違うところの保育園に行かされると。それから別のところに入ろうと思ったら、もういっぱい入れないと言われたと。どうにかならないかという相談も受けたりしました。だから難しいなと思うんですけど、事務局の言われていることは仕方がないのかなということが、私の感じていることです。

会 長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委 員 恐らく全国でこういうことはやられていると思うんですが、よく医療の世界でも話に出るんですが、岩手県と四国がほぼ同じ面積なんですね。また香川県と長野県の木曾地区なんかがほぼ同じ面積なんですね。全国の水準で考えて、こういうことを導き出したとすれば、やはり坂出のこの面積であれば1区域が適切ではないかと思います。小さくすればキリがありませんし、逆に言うと、やはり香川県は狭いのです。確かに遠いといえば遠いんですけども、全国の他の地域に比べたら非常に近いということで、1区域でいいんじゃないかと思います。

会 長 ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。事務局より提案のありましたように市内全域1区域ということですが、これでご承認いただけますでしょうか。それではご了承いただいたということにしたいと思います。

○（２）事業計画における「量の見込み」の算出について

会 長 それでは続きまして、議題２ 事業計画における量の見込みの算出について、事務局より説明をお願いします。

事務局 （資料２ 市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出について及び資料３ 坂出市子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」についての説明）

会 長 事業計画における量の見込みの算出について事務局より説明がありました

が、ただいまの説明につきまして委員の皆様からのご意見を伺ってまいりたいと思います。いかがでしょうか。非常に込み入った内容になりますので、なかなか理解しづらい面もあろうかと思いますが、そのあたりも含めまして何かご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

委員

子育てしているお母さん達が一番困るのは、一時預かりをしてくれるところや、病気の時引き受けてくれるところがないというのが、すごく困ると思うんですけど、一時預かり事業は、ファミリー・サポートの他に、どういう事業があって、どんなふうが増えるようになっているのか、教えていただけますか。

事務局

恐らくニーズとしては、何か用事ができて、一日お子さんを預かっていたきたいとか、冠婚葬祭等もそうですが、そういった一時預かりなんですけど、今回アンケート調査の中で聞いていますのは、それも含めて、子どもの習い事の送迎とか、そういったものも今回、その他の一時預かり事業の中にニーズとしてあがっております。といいますのは、アンケート調査の中で、そこに○をつけて、年間にたとえば子どもを塾へ送ってもらいたいとか、幼稚園とか保育所の送り迎えの時間だけちょっとお願いしたいとか、そういったところのアンケートに印をつけていますと、ここの一時預かりの数字としてあがっております。

現在の次世代育成支援行動計画の中の一時預かりは、保育所等を利用した一時預かりということで、半日とか1日とか、3時間とかでもけっこうなんですけど、そういうニーズをとらえていたんですけど、それ以外のたとえば幼稚園や保育所、小学校への送迎とか放課後児童クラブの迎えとか、そういったことをファミリー・サポート・センターのほうにお願いしているという家庭もございます。それが平成24年度の実績で言いますと834件ございました。数字自体は、かなり大きくなっていると思うのですが、潜在ニーズを含めた数字になっております。

実際、急に冠婚葬祭などの用事ができて、子どもを預かってもらいたいという時でも、なかなか預かってもらえる場所がない。たとえば保育所等でも行っているのですが、ここのところ乳児とかの保育所への入所が増えている関係で、保育士の先生がそこに人数が取られているということで、なかなか一時預かりまで人手が足りないということで、受け入れがかなり難しい状況が生じております。ですから実績よりは潜在的なニーズを含めると大きいというのは十分承知いたしております。それに加えまして、先程言いましたような送り迎え等の一時預かりを加えた数値になっております。

委員

これだけは人数を受けることが可能という数字ではなくて、これだけの人

数の要望があるということですね。私もファミリー・サポートでサポートはしているんですけど、2歳児はサポートする人の人数がすごく足りない。これは可能な人数じゃないわけですね。要望の人数ですね。これだけの要望があるだろうという。

事務局 はい、これは今回のアンケート調査で利用したいという回答から推計した数字でございます。今後どういう形で量に見合うだけを確認するかとか、施設をどう整備していくかというのは、今後またこの会議の中で、議論していただくこととなります。今回出ていますのは、全て利用者の利用希望ということで考えていただきたいと思います。

委員 ありがとうございます。

会長 その他、いかがでしょうか。ご質問、あるいはご意見お願いいたします。

委員 もしこういったことの利用がしたいというニーズがアンケートで出てきた時に、実際にもしそのニーズに応じていこうとすれば、もっと要望が出てくることが見込まれるわけですね。今のところのアンケートでは、そういった潜在ニーズがあると。実際事業をやっているかとなると、これはまた変わるかもわからないということも含まれているとみていいですね。

事務局 これは将来の利用意向ということになります。最初ご説明した中で、潜在家庭累計ということで、たとえば専業主婦の方が来年就職したい、フルタイムになりたい、しかしこれが必ずしもフルタイムになれるとは限りません。ですが、現時点で利用を希望するということから出している数字でございます。

加えて、都会でもよくあるのですが、横浜市の場合でも待機児童が一時的にはなくなったのですが、非常に施設を整備したことで、保育所にどんどん入れるというようなイメージができて、施設を整備するから、さらにニーズの掘り起こしというか、そういったようなことにもなっています。たとえば先程ありましたように一時預かりですね。こういったことも、ある程度サービスをする箇所が増えて、利用する方が増えて、利用者の中に浸透していけば、さらに私も使ってみようかというような利用が増えていく場合もございます。逆に今の時点では利用を希望していたんですけども、たとえば病児保育であって、子どもが病気で預けたいとあの時は考えていたけれども、休むこともできるし、病気の時ぐらひは子どもをみてあげたいという保護者の方もいらっしゃると思います。実際に出した数字よりも小さくなることも考えられます。

この事業計画につきましては、5年間の推計値を出しておりますので、子ども・子育て会議の中で、この推計値に対して実績がどうであったかにつき

まして点検し、大幅に変わってきているのであれば、中間年、28年度か29年度のあたりで、計画自体の見直しを審議していかなければいけないと考えています。

今おっしゃられていましたように、必ずしもこの推計した数値の通りにいくものでもないのかなと考えています。実際は増えてくる場合もあるでしょうし、減る場合も出てくるものと思います。

会 長 よろしいでしょうか。その他、いかがでしょうか。先程事務局からの説明がありましたように、この量の見込みをもとに、今後議論を進めさせていただくことになっておりますので、もしこの時点で量の見込みについて、何かご意見等ございましたら、教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

事務局 資料3の2ページ、またお聞きいただきたいと思います。カッコ書きを含めた2段書きで保育所利用の2号認定の推計値を記載しております。なぜ2段書きにしましたかといいますと、ニーズ調査の数値というのは、尊重すべき数値ということで出していかなければいけないんですが、3歳から5歳児で実際に幼稚園にも保育所にも所属しない児童が約60人ということは、現実問題としては、ちょっと考えにくいのかなということで、実態に則して、国のほうの説明会の中でも特に保育所利用の数を過少に見込んで施設整備を行わないということはいけないということで、現実よりもあまりに少ない数字が出るのはおかしいというような説明が担当者会議でございました。なおかつ利用認定の場合、どこかの施設に所属しているということを前提としまして、幼稚園利用のはっきりとした希望がある方を、全体の児童数から引いた残りの数を2号認定とするという考え方も一方では示されております。

そういうことから今回は、このカッコの中の数字を事業量として定めたいと考えております。

会 長 はい、ありがとうございます。先程、事務局から説明がありましたように、2ページ目のところの2号認定のところ、カッコ書きの数値をもとにするということでございます。では、それも含めまして、今回の量の見込みをもとに、今後の議論を進めるということでよろしいでしょうか。それではお認めいただいたということにしたいと思います。

○（3）子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告について

会 長 それでは続きまして議題3 ニーズ調査結果報告について、事務局の説明をお願いいたします。

事務局 （資料4 坂出市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書についての説明）

会 長 ただいまニーズ調査結果報告につきまして事務局より説明がございました。ここでは自由回答欄を中心に説明がございました。100 ページを越えますような冊子でありますので、またこちらのほうをよくご覧いただき、もし質問等ございましたら、次の会議等でおっしゃっていただきたいと思えます。この場で何かお聞きになりたいこと等ありましたら、お願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。自由回答欄を中心に説明していただきましたので、この自由回答につきまして、もし何か質問等ございましたらお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

委 員 質問というのではなくて、個人的な意見なんですけど、この会に参加させていただくようになった時から、少し頭によぎったんですけど、今のアンケートの結果からもそうなんですけど、親が仕事をしている。なので遅くまで保育してほしいとか。じゃあそれだけ忙しい仕事をしてお金を稼いでいるんだと思うけれども、経済援助してほしい。やはり一番多いのは医療費ですよ。私も6歳の息子がいて、ぜんそくを持っているので月に2回、お医者様にお世話になっています。この春から実費になりますね。だから不安なところはあるんですけど、でも自分の子どもだから仕方がない。このアンケートをみて、親はいつ自分の子どもを面倒みるの？というのが、すごく不思議に思うんですよ。

私は家が農家でして、2歳から保育所にお世話になっているんですけど、私は両親ともおりませんで、いろんなお話の中で出てくる冠婚葬祭や仕事も含め、いろんなことがあるにしろ、私は身内にはサポートしてもらう人がいなくて、1歳から田んぼにつれて行って、野放しみたいな感じで、多少のケガとかはありますけど、どうにかやってきています。だから子どものためというよりは、私にはどうしても親のことばかり、大人の都合ばかりのような気がして仕方がないですよ。結局親をサポートしなかったら、子どもが辛い目をするというのもわかるんですけど。私は逆に医療費でも、よその市が中学校までなので、坂出もなったらいいというのは、私も母親として保育所などで父兄から聞きます。でもそうすると、なんでもないようなことでもタダだからと病院に駆け込む親が多い。でもお金がかかると思ったら、家でできる対処法をとってみたり、子どもと密に関われる。

だから私は、坂出では確固として、断固こういう考えがあって、こうなんだというふうにしていってほしいなと逆に思います。

会 長 貴重なご意見ありがとうございます。その他、自由回答欄につきまして、何かございますか。

委 員 今の意見を聞いて、すごく共感する部分と、でももう少しこういうふう

考えたらどうですかというような部分があるんですよ。私も同じように、子ども・子育て会議の中の話されている中身が、親の都合ばかりというか、就労時間がどうだとかいうのが中心になっているじゃないですか。子ども達の置かれている現状とか、保育の中身とか、そういうものをもっと良くしていくような、子ども達の状況とかいうのが、なかなか出てこない。やはり子ども達にとっていい環境を作っていこうというのが、皆の願いなわけなので、そのための保育園とか保育の充実ということじゃないですか。アンケートのいろんな要望の中で、遊び場がないとか、そういうことも出されていますし、そういう話をしていけたらいいのにと 생각합니다。

医療費の問題で言いますと、基本は私はどの子も安心して医療を受けられたりとか、そういう最低限の部分については、皆が保障されるのがよいと思います。お金がないから行けない、病院にかかれない。そういうことがないというのが基本にあって、その上で、じゃあどこまで負担するとか、補助してもらいかみたいな、そういう話が大事なんじゃないかなと思います。

会 長 ご意見、どうもありがとうございます。その他、もし何かございましたら、お願いしたいと思うんですが。よろしいでしょうか。

委 員 子育て支援のことなんですけれども、私の知っている人で母子愛育のほうで活動されている方がいるんです。小さい地域なんですけれども毎月活動している。来るお母さん方というのが、何かイベント的なものをすれば6～7名いらっしゃられるみたいなんです。でも自分達が何かをするようプログラムの時には、あんまり見向きをしないと。前回の時にありましたよね。親のところへ出掛けて行くとか、そういう現状があるみたいで。だから地域の中では、新聞のようなものを毎月手配りをするらしいんですけれど、40名ぐらいいるらしいんです。でもその中で、実際に月に1回のそういうイベントを利用するのは6～7名らしいです。新しいアパートが次々建っているんですけど、その方達は自治会とかに入っていないんですよ。隣に住んでいる人も全然知らない。そこへたまたま6人が参加した時に、初めて「同じアパートだったの」というような話があって、じゃあ次の時に誘ってみるとかいうような話になるというのが現状みたいなんです。それでもお世話をしている方は、少しでもそういうところにお役に立っているんだからいいかなと言ってらっしゃるけど、もう少し利用が増えるような方法がないのかなと思います。

それと子育て支援を実際にやっている知り合いの人が、もうこれ以上何をしてあげないといけないのかというぐらいしているような感覚があるんですよ。今のお母さんは、してもらうのに慣れてしまって、自分から何かをしたとか、そういうのがなくて。それこそさっきも言いましたけど、自分達で

園庭開放の日とかあったら、もう違うところへ出掛けていってしまう。何かイベント的なものがあったら、そこへはやってくる。前回もありましたけど、他の地域はこういうこともしてくれているのにとかいうような感じで言っているらしいんです。

私より二回り近く若い人が、今、世話をしてらっしゃるんですけども、その人達が、私達の時代はもう少しなんでもやっていたけど、今の人はなんか言ったらしんどい、しんどい、子育てがしんどいというような感じで言っている。もう少し自分達で何かしようという考えがないのかな。子育て支援が始まった最初の頃は、来ていたお母さん方が、生き生き、それこそ大型の紙芝居を自分達で作って、子ども達に見せてくれるとか、そういうようなサークル的な活動をもものすごく大事にしてくれたのに、今はそういうのがあまり感じられない。だからそこらへんを考えると、どうしてかなと思うんですけど。

家庭の中でたとえば、夫が遅く帰ってくるような家庭で、子育てで今日はこんなことがあったから、本当にこんな話をして、子どもの話をして共感したいなと思っても、疲れて帰ってくる夫にしたら、まだ食事の準備もできてないのかというような感じで言われると、テンションがすごく下がって、子どもの話をしたりするどころじゃないと思うんですよね。自分の場合でも、ちょっと出掛けて遅くなった時に、夫にいつまで時間がかかるんだ、早く食事の用意しろとか言われたら、私は外へ出掛けて、自分的には8ぐらいのエネルギーがあって帰ってきて、食事の用意をしようとした時に、そういう言葉を聞いた時には、もうモチベーションが1か2に下がってしまいます。だから子育ての人達も、そういう状態がすごくあるんじゃないかなと思うんです。

アンケートの調査で、第1子がいる方のお母さん方のアンケート調査をすると、夫が育児を手伝ってくれる人だったら第2子、第3子も欲しい、生んでもいいという回答がすごく多くて、そういう協力を得られない家庭のお母さんは、もう第2子以降はあんまりというような結果が出ているみたいなので。だからそういうことがすごく大事です。コミュニケーションスキルとか、そういうものが育っていたら、いい状態でいけると思うんです。だから、そういう点で、子育て支援の中に、コミュニケーションスキルとか、共感とか受容とかそんなものがスキルとして親に備わるような、そんなプログラムもあったらいいのかなと思いました。

委員 私、委員の話にはすごく共感ができて、若い人にもこういう考えの人がいるというのは、すごくうれしく思います。たとえば幼稚園の給食というけど、

本来、子どもの栄養管理というのは親の仕事という気もしました。

それで私も子育てサークルをずっとサポートしてきたんですが、私のところの子育てサークルでは、お母さん達が全部してくれるんです。運営から全部してくれます。今の若いお母さんというのは、すごい力があります。男女共同参画の時代で育ってきているので、小さい頃からけっこう女の人でも表に出る力はあるんです。いつも思うのは、その力をいかにして出してあげるかというのが、すごく大事だと思うんです。子育て支援というのは、何をしてあげるかだけではないと思うんです。お母さん達の力をいかに引き出してあげるかというのも子育て支援だと思うんです。ただ家の中に引きこもっていて、子どもの世話だけしているというお母さんも多い。だからどんどんそういうお母さん達に、いかにして社会に出て自分達の力を発揮させてあげるかということも、すごい大事な子育て支援だと思うんですね。いつもよく機会があったら言うんですけども、お母さん達のパワーを使ってほしい。若いお母さん達はすごい力を持っているんです。使ってほしいなと思いますね。何をしてあげるかじゃなくて、我々が何をしていくかというのが大事なんですけれども、我々も若いお母さん達も、市が何をしてくれるかなと待ってるのではなくて、何ができるかということを考えることがすごい大事ではないかなと思います。

会 長 はい、どうもありがとうございます。大変貴重なご意見をいただきました。それを踏まえまして、今後のこの会議の議論は進めてまいりたいと思っております。

それでは以上で本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。最後に事務局から何かございますでしょうか。

事務局 次回の会議につきましては、本日ご議論いただきました量の見込みに対する確保策についてご検討いただきたいと思います。開催時期につきましては、現在未定でございますので、改めましてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

会 長 ありがとうございます。それでは以上をもちまして本日の会議を閉会いたします。長時間にわたりお疲れ様でございました。